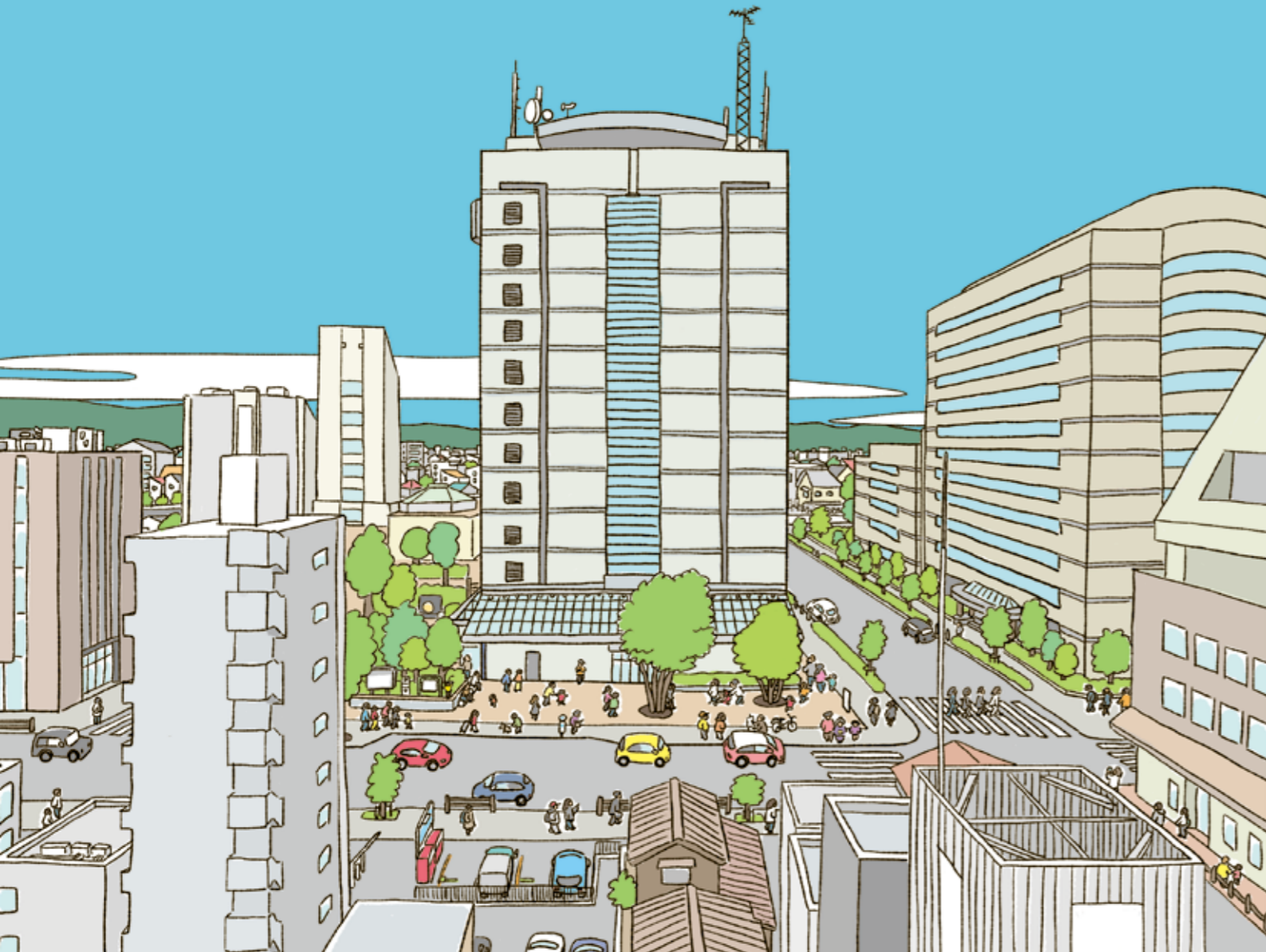


公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団

30th Anniversary

公益財団法人 調布市文化・コミュニティ振興財団
Foundation for the promotion of Chofu city's culture and community



30th Anniversary

財団概要

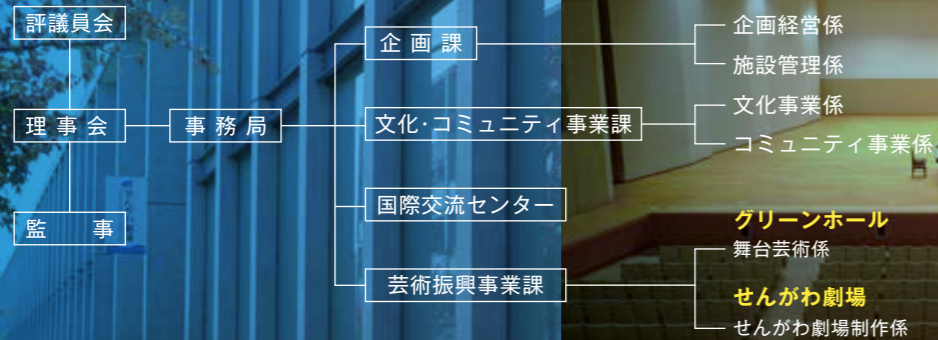
基本理念

- 1 豊かな人間性を育む文化芸術の推進
- 2 地域の多様な特色を生かした調布ブランドの創造・発信
- 3 誰もが参加できる創造・活動の場
- 4 文化プラットフォームの形成と地域コミュニティの活性化
- 5 利用者中心の弾力的な施設管理運営

公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団

設立 1995年3月31日(2011年4月1日公益財団法人へ移行)
 基本財産 5億円
 代表者 理事長 榊 正剛
 事業費 15億7,928万円(2025年度予算)
 職員数 51人(2026年3月現在)

組織



ごあいさつ

当財団は1995年3月に設立され、同年10月に開館した文化会館たづくりとともに、2025年に30年の節目の年を迎えることができました。これもひとえに、市民の皆さま、事業や運営にご理解・ご協力をいただきました皆さまの長年のお力添えとご愛顧の賜物と深く感謝申し上げます。

当財団では設立当初から、文化会館たづくりとグリーンホールを拠点に、文化芸術、生涯学習、コミュニティの推進に取り組み、2019年からはせんがわ劇場、2024年からは国際交流センターの運営も担っています。

2025年3月に策定された「調布市文化芸術推進ビジョン」では、共生社会の充実や、多様な主体と連携した文化芸術の推進、福祉や教育、観光をはじめ関連分野の各施策との連携などが盛り込まれ、文化芸術に期待される役割は以前にも増して多岐にわたっています。

こうした状況を踏まえ、2025年4月から、多文化共生の実現を目指して「BEYOND CULTURES たづくりは おもしろい」をキャッチフレーズに30周年記念事業を実施しました。年齢、障害の有無、国籍などにかかわらず、誰もが生き生きと楽しみ、交流できるよう、外国人や障害のある方のお話も伺いながら、アーティストや市民ボランティアの皆さんと共に考え、取り組むなかで、沢山の笑顔に出会うことができました。

1年間を通じてご来館された方々が書き込んでくださった「トリドリカード」には、たづくりへの愛と夢のメッセージがあふれています。今後も、人と人とのつながりを大切に、豊かで彩りに満ちた市民生活に貢献できるよう努めてまいります。どうぞ変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団
理事長 榊 正剛

調布市文化・コミュニティ振興財団設立30周年に寄せて

公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団が設立30周年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

これまで貴財団と市は相互に連携を図りながら、調布の文化芸術の振興に向け、様々な事業に取り組みまいりました。この度、貴財団が設立30周年、そして調布市も市制施行70周年という節目の年を共に迎えられたことを嬉しく思っております。

貴財団には、調布の文化芸術の発信・活動拠点として中心的な役割を担う文化会館たづくりのほか、グリーンホール、せんがわ劇場の3館を運営いただいております。そして、クラシックを中心とした音楽の祭典である「調布国際音楽祭」や映画のつくり手を中心とした「映画のまち調布 シネマフェスティバル」、調布よさこいを今年度新たにリニューアルした「ちょうふふ彩咲祭」、調布市文化協会を中心とした多くの市民による文化芸術活動の発表の場である「市民文化祭」などの取組を通して、身近で愛着のある場での高い文化芸術に触れる機会を幅広い世代の市民に提供いただいております。

市は、2025年3月に「調布市文化芸術推進ビジョン」を策定するとともに、同年4月には「調布市若者の文化芸術活動及びスポーツ活動の応援に関する条例」を施行しました。それらに基づき、引き続き市民の多彩な文化芸術活動を通じた共生社会の充実及び魅力ある地域社会の実現を目指すとともに、条例に基づく若者の文化芸術活動の応援に寄与すべく、今後も、貴財団と共に様々な施策を展開してまいります。

結びに、公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団の益々のご発展を祈念申し上げ、祝辞とさせていただきます。



調布市長
長友 貴樹



財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団設立
文化会館たづくり開館

調布市グリーンホール開館20周年

文化会館たづくり来館者数1,000万人達成

「調布よさこい」第1回開催



文化会館たづくり開館及び財団設立10周年

たづくり・グリーンホールの指定管理開始

調布市グリーンホール開館30周年

「調布音楽祭」第1回開催
桐朋学園大学音楽学部と相互協力提携に関する協定を締結

公益財団法人に移行(公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団)

「調布音楽祭」第1回開催

桐朋学園大学音楽学部と相互協力提携に関する協定を締結

文化会館たづくり開館及び財団設立20周年



調布市グリーンホール開館40周年



「調布音楽祭」が「調布国際音楽祭」へ

「映画のまち調布シネマフェスティバル」第1回開催

調布市文化・コミュニティ振興財団基本計画(令和元年度～10年度)を策定

調布市から移管し、せんがわ劇場の指定管理開始

文化会館たづくり来館者数5,000万人達成

文化芸術を通じた共生社会の充実に向けた取組

「パラハートちようふ meets ART」の本格始動



小笠原響せんがわ劇場芸術監督就任

調布市国際交流協会事業を継承し、国際交流センターとして運営開始

文化会館たづくり開館及び財団設立30周年

桐朋学園芸術短期大学と相互協力提携に関する協定を締結

「調布よさこい」が「ちようふ多彩咲祭」へ

松本嘉郎理事長

丸山智子理事長

荻本貞臣理事長

榊正剛理事長

第1期指定管理

たづくり・グリーンホールの第2期指定管理

たづくり・グリーンホールの第3期指定管理

たづくり・グリーンホールの第4期指定管理

せんがわ劇場の第1期指定管理

せんがわ劇場の第2期指定管理

1995

2025

1997 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2023 2024



京王線連続立体交差事業開始

「文化芸術振興基本法」制定

「文化芸術の振興に関する基本的な方針」(第1次基本方針)の策定

「指定管理者制度」の創設

「指定管理者制度」の全面施行

「第2次基本方針」の策定

「公益法人制度改革関連三法」の施行



調布市せんがわ劇場開館

「第3次基本方針」の策定

「劇場・音楽堂等の活性化に関する法律」施行



京王線調布駅地下化完成(調布駅～国領駅間など)

調布市制施行60周年
「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」制定

「第4次基本方針」の策定

「障害者差別解消法」施行

トリエ京王調布開業(C館では「イオンシネマシアタス調布」が営業開始)

文化芸術振興基本法の一部改正により、文化芸術基本法となる

「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」施行



ラグビーワールドカップ2019

新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大

東京2020大会、無観客開催



改正「障害者差別解消法」施行



調布市制施行70周年
木島平村姉妹都市盟約40周年
「調布市文化芸術推進ビジョン」策定
「調布市若者の文化芸術活動及びスポーツ活動の応援に関する条例」施行

ちょうふ彩咲祭



1977年に始まった「調布ふるさとまつり」を財団が継承し、2003年からは「調布よさこい」として21回開催。2025年より「ちょうふ彩咲祭」として新たに生まれ変わりました。

よさこいに加え、キッズダンス、阿波踊り、吹奏楽などのパフォーマンス、飲食や子ども向けワークショップを実施しました。また、車いすダンサーのかんばらけんたさん、車いすインフルエンサーの中嶋涼子さんをゲストに迎えて行った「彩咲祭みんなのパレード」は、年齢・性別・国籍など関係なく、多様な方々が集まり、パフォーマンスを披露しました。本祭終了後に開催した「みんなのデイスコ」では、パフォーマンス出演者、ゲスト、来場者みんなで懐かしのデイスコソングで踊りました。

多彩な企画によって、参加者・来場者共に「ちょうふ彩咲祭」のキャッチフレーズである「だれも笑顔！」となり、様々な立場の市民が交流できる機会となりました。

Detail

令和7年10月4日(土)
午前11時～午後4時30分
たづくりエリア(くすのきホール、むらさきホール、たづくり北側道路、市役所前庭)
旧甲州街道(調布駅北口～布田駅前)

30周年事業



30周年記念事業では、調布市と共に掲げる“共生社会の充実”を目指し、国籍や民族が異なる人々が、互いの文化への理解を深め、認め合い、交流する多文化共生の実現に向けて、誰もが楽しめる事業を実施してきました。1年間を通して開催された記念事業を振り返ります。



ユメトリドリくたづくりへのメッセージ

Detail

令和7年5月3日(土・祝)～令和8年3月31日
文化会館たづくり館内各所

それぞれの目的をもってたづくりを訪れる皆様ひとりひとりの想いを共有できたら、と考え企画したワークショップ。黒木ユタカさんデザインの3種の「トリドリカード」には、10年後のたづくり／たづくりの好きなところ／たづくりのおすすめの場所への想いが綴られています。皆様から集まったトリドリカードは2000枚を超え、たづくり館内を彩りました。



Detail 令和7年11月24日(月・休)第1部 午前11時～ / 第2部 午後3時～
グリーンホール小ホール



「調布」のまちをテーマに街の魅力を新たに発見する展覧会「マチトリドリ」の第二弾。様々な街を見てきた3組のイラストレーター、アイザワ デイリンさん、イスナ デザインさん、小川真二郎さんが、それぞれの視点から調布を見つめ描き下ろした新作を展示。

会場内には国際交流センターの日本語教室に通っている外国人のみなさんから調布の印象を聞いたパネルも設置しました。期間中は「調布のまちの未来を立ち上げる」ワークショップや日本語が苦手な外国の方も安心して参加できる「やさしい日本語」を使用した対話型鑑賞を実施し、多様な人々がつながる展示となりました。

ちょうどアートサポートーズが、多文化共生の実現に向けて、誰もが楽しめるように企画したコンサートです。

2025年4月からピアノニストの森下唯さん(調布国際音楽祭アソシエイト・プロデューサー)と、ソプラノ歌手のメニッ シュ純子さんと共に毎月1回ワークショップを行い、企画を練りました。全体のテーマは世界をつなぐ「空」に決めました。

第1部は「どこかで聴いた空の歌」と題し、0歳から楽しめるよう世界の民謡や子守歌を中心とした曲目でお送りしました。第2部は「星降る夜に想いを寄せて」と題し、A・ドヴォルザークをはじめ、世界の夜空を感じる曲目でお送りし、大人が楽しめる公演となりました。

世界の空に耳をすまして
ソプラノとピアノで奏でる音楽会



座談会の様子

マチトリドリ2～イラストレーターと見る調布の今とこれから～



Detail
令和7年10月3日(金)～令和8年1月12日(月・祝)
文化会館たづくり展示室



昆虫のはなし
Let's talk about insects

Detail 令和7年6月25日(水)～令和7年9月15日(月・祝)
文化会館たづくり展示室、エントランスホール、館内各所



スポンジで作る虫ヘッド
は子どもたちに大人気!

写真、絵本、スポンジオブジェで独自の世界観を表現している海野和男さん、館野鴻さん、ヨシカワゴエモンさんの3人による昆虫のリアルに迫る展覧会。たづくり館内にも作品が点在し、多くの子ども達が館内を巡りました。チラシも英語、中国語、韓国語、ベトナム語を用意しました。



撮影・青二才



記録動画

ファンリテーター

かんばら けんた(車いすダンサー)
深堀 絵梨(演出家・振付家 センがわ劇場DELメンバー)
タカミ ナオミ(演出家 センがわ劇場DELメンバー)

Detail

令和7年7月26日(土)～令和7年8月9日(土)
ワークショップ・リハーサル(全7回)
令和7年8月10日(日)発表会
せんがわ劇場ホール



年齢、性別、障害など、多様な背景を持つ13名が参加し、演劇パフォーマンส์作品を創作しました。初日はお互いに緊張した面持ちで自己紹介をしていましたが、ファシリテーターの丁寧で寄り添ったサポートのもと、7日間のワークショップを通して対話を重ね、表現を繰り返すことで作品をつくりあげていきました。最終日には発表会を行い、家族や友人の前で成果を披露しました。参加者からは「できないことを恥ずかしながら助けると言えたことが嬉しかった。お互いの、できないを補い合える関係が素敵だと思いました」といった声も寄せられ、作品づくりを通して、お互いを理解し、違いを尊重しながら人と人とのつながりを改めて見つめ直す時間となりました。

わたし／あなた／せんがわ劇場インクルーシブシアター
『いま・ここ・わたしとあなたとなつのおもいで』

映画のまち調布 シネマフェスティバル関連上映会
ユニバーサル上映会『青春18×2 君へと続く道』



Detail 令和7年8月9日(土)午後4時～
文化会館たづくりくすのきホール

日台合作の本作を、前田浩子プロデューサーによるゲストトーク付きで上映しました。トークでは手話通訳とUDトークによる日英リアルタイム文字変換サポートを提供し、東京外国語大学の倉田明子准教授の進行のもと、国境を越えた映画製作の舞台裏についてお話しいただきました。

調布国際音楽祭 2025

調布国際音楽祭は、調布出身の音楽家・鈴木優人さん、森下唯さんを中心に、国内外の優れた演奏家が集うクラシック音楽の祭典として、毎年質の高い公演を発信しています。

フェスティバル・オーケストラには様々な地域から若手演奏家が参加し、第一線の音楽家との共演を通じて、毎年新たな表現に挑戦しています。今年もシンガポールのヨン・シウ・トウ音楽院の留学生7名が参加し、演奏面はもちろん、国際的な交流の場としても広がりを見せています。海外からの留学生はホームステイを通して地域とのつながりも深めました。



Detail 令和7年6月21日(土)~令和7年6月29日(日)
グリーンホール、文化会館たづくり、せんがわ劇場、深大寺本堂ほか



©K.Miura



©K.Miura



©K.Miura

小さな小さな音楽会 vol.333

Detail 令和7年9月10日(水)午後零時5分~
文化会館たづくりエントランスステージ



調布ゆかりの演奏家が市民に質の高い芸術を届ける機会として、昼時に文化会館たづくりエントランスステージで無料のコンサートを2回行いました。

「世界の多様な楽器や国際色豊かな音楽に触れる」をテーマに、イ・フィラトリー・ティムジカさん(リコーダーとバロックハーブによるイタリアの音楽)、李洋洋さん(中阮と二胡などによる中国の音楽)という個性あふれる2組の団体が出演しました。

ふらっと立ち寄った方々も、しばし素敵な音楽に耳を傾けていました。演奏家にとっても、幅広い市民に音楽を届ける貴重な交流の場となりました。

小さな小さな音楽会 vol.334

Detail 令和7年11月12日(水)午後零時5分~
文化会館たづくりエントランスステージ

調布ゆかりの演奏家が市民に質の高い芸術を届ける機会として、昼時に文化会館たづくりエントランスステージで無料のコンサートを2回行いました。

「世界の多様な楽器や国際色豊かな音楽に触れる」をテーマに、イ・フィラトリー・ティムジカさん(リコーダーとバロックハーブによるイタリアの音楽)、李洋洋さん(中阮と二胡などによる中国の音楽)という個性あふれる2組の団体が出演しました。

ふらっと立ち寄った方々も、しばし素敵な音楽に耳を傾けていました。演奏家にとっても、幅広い市民に音楽を届ける貴重な交流の場となりました。

宮本益光バリトンリサイタル

Detail 令和7年11月29日(土)午後3時~
文化会館たづくりくすのきホール



バリトン歌手で桐朋学園大学教授の宮本益光さんによるリサイタルを開催しました。

宮本さんは、懐かしい文部省唱歌から現代作品まで、時代を超えて心に響く「日本のうた」の魅力をつつぷりと披露。合唱ステージでは、アウトリーチで指導を受けた神代中学校・第六中学校合唱部と、女声合唱団「桐」(桐朋学園芸術短期大学卒業生)が、宮本さん作詞の楽曲を一体感のある生き生きとした演奏で届け、世代を超えた地域交流の輪を広げました。

また、UDトークによる字幕表示、手話通訳、点字プログラムなど、鑑賞サポートも充実。幅広い市民が日本の歌の素晴らしさを改めて感じる一日となりました。

FRIENDSHIP DAY 2025



Detail 令和7年8月9日(土)午後1時30分~午後3時30分
文化会館たづくりむらさきホール

来場者が各国の文化等を知って、見て、楽しんで、出展国者と交流しお互いを知ることを目的としたイベントです。

2025年は、深めよう、世界との絆、調布からのスローガンのもと、インド、インドネシア、サウジアラビア、パキスタン、フィリピン、フランス、ルーマニア、中国、日本の9か国が出展し、国を紹介するプレゼンテーションや民族衣装・民芸品等の展示、またインドやフィリピン等の民族舞踊や日本の津軽三味線等が披露されました。

さらに、子どもも楽しめるよう、各国のブースでクイズに挑戦しスタンプを集めるスタンプラリーを実施し、好評でした。

第30回日本語で話そう会



Detail 令和7年11月15日(土)午後1時30分~午後4時
文化会館たづくり大会議場

旧調布市国際交流協会設立時から回を重ね、第30回という節目を迎えました。

国際交流センターで日々日本語学習に励む外国の方々、自由なテーマで日本語で発表します。成人クラスで学習をする人、小さな子どもを連れて、だっころっころらぶらぶらに参加するママやパパ、市内の小・中学校に通う外国に繋がる児童・生徒、色々の国の、幅広い世代の、多様な方から、「自分の国のこと」、「日本に来て頑張っていること」、「日本に来て驚いたこと」、「将来の夢」等について、興味深いお話を聞くことができました。

発表者は一緒に学習する日本人ボランティアのサポートを受けながら、原稿を作成し推敲を重ね、練習を繰り返して、本番に挑みました。

来場者が気軽に発表者らに話しかけ、交流する場面も見られる温かい雰囲気イベントです。

ニューイヤーパーティ 2026



Detail 令和8年1月17日(土)午後2時~午後4時
文化会館たづくり大会議場

CIFA会員や市民、日本人、外国人が一堂に会し、新しい年の訪れを祝うパーティです。

会員らによるパフォーマンスの披露のほか、参加者体験型のワークショップ、調布ゆかりの景品が当たる抽選会、全員参加のアクティビティがあり、盛り上がりがあります。

今回は、フィリピン出身女性らによる「バンブーダンス」、江戸時代から続く伝統芸「大江戸玉すだれ」、シリア出身女性による歌が披露され、来場者の目と耳を楽しませてくれました。

創設者・鈴木雅明氏が市内在住であったことを契機に、2010年に協定を締結。以来、公開リハーサルなどの協定事業を継続し、市民に質の高い音楽鑑賞の機会を提供しています。この協力関係を基に2013年に音楽祭を立ち上げました。

バッハ・コレギウム・ジャパン



©K.Miura

調布国際音楽祭

日本を代表する音楽家を数多く輩出してきた音楽大学として、2014年に協定を締結しました。オーケストラ公演のほか、音楽祭をはじめとする各種音楽事業を通じて、市民が身近に音楽に親しむ機会を提供しています。

桐朋学園大学



©K.Miura

調布国際音楽祭

音楽祭では深大寺本堂を会場に、古楽器による有料公演を毎年実施しており、本堂で鑑賞できる貴重な機会として市民に親しまれています。近年は音楽祭の開催内容を発表する記者会見の会場としてもご協力いただいています。

深大寺



©K.Miura

調布国際音楽祭

地域とともに

Regional Partner

財団の実施する文化芸術事業は、多くの企業・団体の皆さまのご理解とご協力によって支えられています。地域に根ざした多様なパートナーとの連携の歩みを、「調布国際音楽祭」、「映画のまち調布 シネマフェスティバル」、「ちょうふ彩咲祭」の3つのお祭りを中心に、ご紹介します。

シネフェスの構想段階から有識者会議・実行委員会に参画し、上映素材や展示品の借用のほか所内施設を「映画のまち調布賞」選考試写・選考会場としてご提供いただいています。調布映画祭時代から長年映画祭を支えていただいています。

日活調布撮影所



調布シネフェス

シネフェスでは構想段階から有識者会議・実行委員会に参画いただくなど、調布映画祭時代から長年にわたり、美術制作をはじめとした専門性に基づく多角的なご協力をいただいています。近年は、音楽祭においてもご支援をいただいています。

株式会社 角川大映スタジオ

受賞者と「映画のまち調布」応援キャラクターガチャラ ©角川大映スタジオ



調布シネフェス

調布国際音楽祭

調布よさこいでは2008年から2019年まで、演舞や縁日の会場としてご協力いただきました。音楽祭では2022年からご支援をいただき、地域に開かれた音楽の場として神楽殿を会場とした無料コンサートを開催しています。

布多天神社



©K.Miura

調布国際音楽祭

調布よさこい

調布映画祭時代から上映や展示にご協力いただいています。VFX制作の第一人者である山崎貴監督の企画展やトークイベントも実施し、2025年には、国内外で高く評価された「ゴジラ-1.0」も上映しました。

株式会社白組



調布シネフェス

シネフェス構想段階から実行委員会に参画いただき、2023年までは「映画のまち調布賞」授賞式・特別上映会の会場として、スクリーンをご提供いただきました。現在も作品上映や館内PRなど映画祭の企画・実施にご協力いただいています。

イオンシネマ シアタス調布



調布シネフェス

「調布よさこい」開催を機に、旧甲州街道沿いの3商店会による縁日と流し踊りの連携が始まりました。「ちょうふ彩咲祭」へと形を変えた現在も、地域と祭りを支える協力体制が受け継がれています。

調布中央商店会 / 上布田商栄会 / 不動商店会



ちょうふ彩咲祭

2022年から音楽祭に特別協賛をいただき、協賛の取組として、会場内で小児がんの子どもたちのための募金活動や公演への招待を実施しています。シネフェスでは、5年にわたり開催したファミリーコンサートを支えていただきました。

アフラック生命保険 株式会社



調布シネフェス

調布国際音楽祭

音楽祭では施設内店舗でのコンサートやチケット半券サービスを実施。シネフェスでは実行委員会への参加をはじめ、調布駅構内大型モニターでの動画放映や京王線中吊り広告など、PR面で多大なるご支援をいただいています。

トリエ京王調布 (株式会社京王SCクリエイション)



調布シネフェス

調布国際音楽祭

レストランフロアやエントランスでの音楽演奏をはじめ、音楽祭ではチケット半券サービスを実施。シネフェスではポスター掲出やチラシ設置、関連イベントの施設内実施など、初回から継続的に後援企業としてご協力いただいています。

調布PARCO



調布シネフェス

調布国際音楽祭

映画のまち調布 シネマフェスティバル

28回続いた調布映画祭を2019年にリニューアル。映画・映像を楽しむ機会の創出と地域文化の振興を目的に、市内映画・映像関連企業と連携し、映画のつくり手にスポットを当てた映画祭です。

ちょうふ彩咲祭

夏の風物詩「調布よさこい」を10月開催に刷新。誰もが集い交流できる場として、よさこいに加えダンスや音楽、ワークショップなど多彩な企画を楽しめる、市民参加型のおまつりとして2025年にリニューアルしました。



2013年から続く、初夏に開催される地域の特色を活かしたクラシック中心の音楽祭です。音楽家・鈴木優人を中心に、手作りの感覚とクオリティを両立させたラインナップで親しまれています。



Messages from Our Partners



調布国際音楽祭エグゼクティブ・プロデューサー
鈴木優人



バツハ・コレギウム・ジャパン首席指揮者。2025年1月のBCJ欧州ツアーを指揮。同年11月のバリ管弦楽団デビューなど、国内外の客演も数多い。ジャンルを超えた共演やオペラ上演にも幅広く取り組む。メディア出演や受賞多数。東京藝大院、ハーグ王立音楽院修了。

調布で育った私にとって、この街は音楽家としての原点であり、かけがえのない場所です。エグゼクティブ・プロデューサーとしてみなさまと歩んできた時間は、私自身の人生とも深く重なる大切な財産です。財団のみなさまと対話を重ねながら構築してきた「手作りの音楽祭」——ホールでのコンサートにとどまらず、オーブンステージやミュージックカフェ、街なかに広がるサテライトコンサートなど、ボランティアのみなさんの力も得ながら街全体を音楽で包むこの音楽祭のプロセスにこそ、地域に根差す財団の真価が表れていると感じています。

長年にわたるバツハ・コレギウム・ジャパンの協定に基づく公開リハーサルの特典でしょうか、今や調布市のみならずバツハに親しみを持っている市民は他にはないのではないかと思います。これからもみなさまと共に、この「文化の種」をさらに大きく育て、豊かな調布を次世代へと繋いでいけることを心より願っております。

桐朋学園大学 学長
辰巳明子



Akiko Tatsumi

桐朋学園大学を卒業後、文化庁在外芸術家研修員として、ベルリンに留学。国立ベルリン芸術大学講師を経て、桐朋学園大学にて主任教授、副学長を歴任。2022年4月より桐朋学園大学学長及び桐朋学園大学院大学学長。

調布市文化・コミュニティ振興財団設立30周年、誠におめでとうございます。

貴財団におかれましては、市民の文化活動や学びの場を支え、調布の魅力と人々のつながりを育んでこられました。こうした取り組みが、この地に新たな循環を生み出しているものと拝察しております。

私ども桐朋学園大学は、2014年に市の文化向上および音楽家の育成に共に取り組むことを目的とした相互協力協定を締結していただき、「桐朋学園オーケストラ・グリーンホール定期演奏会」を開催していただいております。市民の皆様のおたかな眼差しに包まれて演奏できることは大変貴重であり、こうした機会が音楽家を志す学生たちの成長を支えておりますことに、心より感謝申し上げます。

貴財団が、今後も人々と歩みを重ね、地域を豊かに彩り続けられますことを、心よりお祈り申し上げます。

調布市せんがわ劇場芸術監督
小笠原響



Kyo Ogasawara

フリーの演出家として演劇界で幅広く活動。2018年、2024年に読売演劇大賞優秀演出家賞受賞。日本芸術文化振興会プログラムオフィサーを務めた経験から近年は劇場における演劇事業の活性化に努め、地域の演劇振興に貢献。

せんがわ劇場では、毎年開催される演劇コンクール出身の若い演劇人が集い、財団職員と共に、市民との接点を重視した事業を展開してきました。2021年度には活動が評価され、地域創造大賞(総務大臣賞)を受賞しました。

私が芸術監督としてお声がけ頂いてからは、更に主催公演の芸術的評価向上を念頭に尽力しています。せんがわ劇場では、館長を中心とした劇場職員と演劇コンクール出身者の選抜チーム、芸術監督が三位一体で劇場を動かしています。三者が各々の立場を生かして事業を計画・実行・評価し合い、前向きに改善を重ねています。管理者と芸術家がひとつになって事業に取り組み、達成する欲びが現場に生まれるつつあります。

安藤忠雄氏設計による劇場は、駅側が斜めにせり出し船の舳先のようなです。財団設立30周年を新たな船出とし、調布市の文化芸術振興のために、これからも力を合わせて進みましょう。

映画のまち調布 シネマフェスティバル実行委員長
佐伯知紀



Tomonori Saiki

1954年生。早稲田大学大学院修了。専門は日本映画史・映画政策論。東京国立近代美術館フィルムセンター研究員を経て、文化庁芸術文化調査官として映画振興政策の立案・実施に参画。現在は映像産業振興機構顧問等。

阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件が起きた1995年は、一方で映画百年の年だった。リュミエール兄弟のシネマトグラフ上映から百年、各国の映画機関が「映画」という新メディアの誕生を祝った年だった。そしてその同年に「調布市の文化芸術の振興」を目的とする「調布市文化・コミュニティ振興財団」は誕生した。活動を続けてはや30年である。

財団は2019年から「映画のまち調布 シネマフェスティバル」を企画、主催しているが、いうまでもなく、市にとって映画は地域の文化資源・資産であり同時に産業である。1934年に日活が現代劇部の人員、家族を京都から大移動させ、多摩川撮影所を開所した。「映画のまち」はここに始まり、90年を経た今もお角川大映スタジオ、日活調布撮影所、白組調布スタジオ等がこの国の映像業界、その最前線を担っている。この事実には驚きと誇りを持ち続けたい。

ちようふ彩咲祭 実行委員長
小林麻美



Asami Kobayashi

A little ballet 主宰/よさこいチーム 彩羽-iroha- 代表。舞台作品の振付・構成を手がけるほか、TV・映画などにダンサーとして多数出演。

30年という長い歩みの中で、ちようふ彩咲祭の実行委員長としてご一緒できたことを、とても有難く嬉しく思っています。

ちようふ彩咲祭は、参加する一人ひとりが自然と主役になり、地域の魅力や力があたたかく伝わってくる、そんなお祭りです。

企画を形にしていくなかで生まれる人と人との繋がりや小さな想いの積み重ねが、このお祭りの大きな魅力であり、大切な実行委員会の役割なのだと感じています。

このお祭りが調布の街にもたらしているのは、にぎわいだけではなく、人と人とをやさしく結ぶあたたかな関係性だと思います。

これからも文化や交流、新しい挑戦を育む取り組みを財団の皆さまとともに深め、世代を越えて親しまれるお祭りへと育っていくことを願っています。

過去3年間のデータを見ると、年により多少変わりますが、11月や年度末の3月に来館される方が多いです。

来館者

年間 **約140万人** ひと月あたり **約12万人**

2023年3月には開館からの総来館者数が5000万人を突破!



利用率**90%**以上の施設(2024年度)

くすのきホール、むらさきホール、リハーサル室、音楽練習室



様々な催し物が開催できるホールや音楽練習室の人気が際立ちます。

たづくりの専門施設

スタジオ、茶室、調理実習室、暗室など



幅広い文化活動に応える環境が整っています。

ピアノ(有料)を常設している施設

くすのきホール、むらさきホール、大会議場、リハーサル室、音楽練習室、研修室



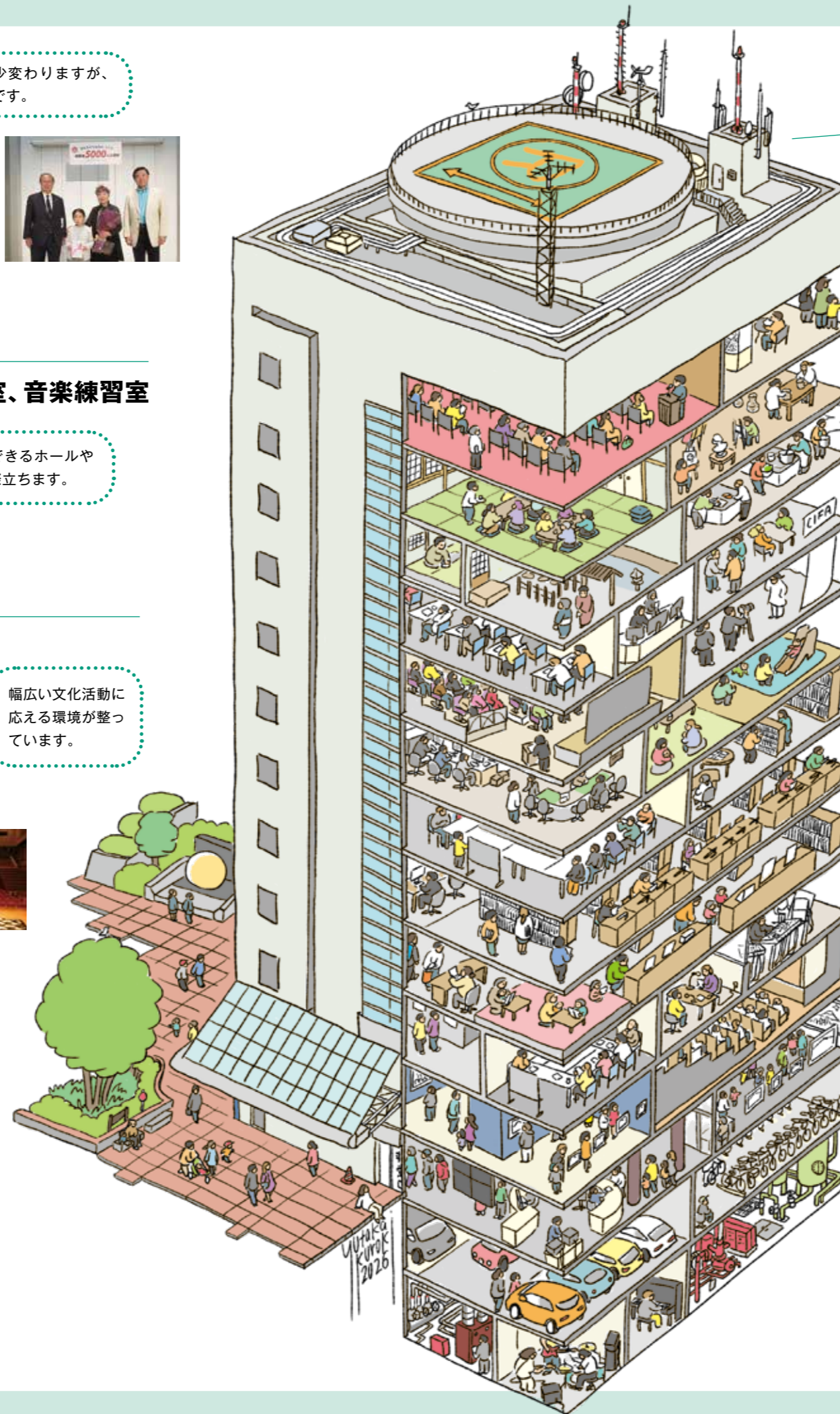
スクリーンを常設している施設

1001・1002 学習室、研修室、第1創作室



たづくり 西館

- 5F: デジタル行政推進課
- 4F: 健康推進課、デジタル行政推進課、子ども家庭センター
- 3F: 保健センター・健康増進室、総合防災安全課事務室・会議室
- 3F: 保険センター 予防接種室・歯科検診室
- 1F: 保健センター受付 診察室 親子面談室 検診待合室
- B1F・B2F: 駐車場



たづくり東館

- 屋上** 緊急救助用スペース、防災無線
- 12F** 大会議場、1201~1203会議室、展望ロビー
- 11F** 第1・第2創作室、1101~1103学習室、コミュニティ室、みんなの広場、印刷室、生涯学習情報コーナー、観光協会、花火実行委員会事務局
- 10F** 1001・1002学習室、調理実習室、談話室、茶室、和室、暗室、読書推進室
- 9F** 研修室、編集室、国際交流センター(CIFA)、リトルギャラリー (→P18)
- 8F** 映像シアター、スタジオ、801会議室、社会人学習室、一般学習室
- 7F** 保育室、授乳室、財団事務室、図書館事務室
- 6F** 601・602会議室、調布市文化協会、利用支援コーナー・視聴覚資料室(中央図書館)
- 4-5F** 中央図書館
- 3F** 301~305会議室、調布FM放送局
- 2F** 南・北ギャラリー、くすのきホール
- 1F** 総合案内、エントランスステージ、喫茶室、むらさきホール、リハーサル室、楽屋ゲゲゲギャラリー (→P18)、展示室 (→P18) 警備室、防災センター、井水処理施設(屋外)
- B1F** 図書館書庫、駐車場、駐輪場、陶窯室
- B2F** 第1~4音楽練習室、中水処理室、非常用発電機、ボイラー、消火ポンプ

たづくり解剖図

「たづくりとは？」
 ・1995年竣工
 ・ホール・会議室などの貸施設、中央図書館、保健センターなど様々な機能をもつ調布市内最大の複合公共施設

防災対応

たづくりは調布市から災害時の避難所に指定されています。いつ起きるかわからない災害に対して施設の整備を進めています。

- **非常用発電機の更新(ESCO 事業)、燃料タンクの新設**
災害等での電源喪失時に館内の重要施設への電力供給が72時間無給油で可能に
- **くすのきホール、1階エントランスの特定天井の改修**
災害に強い施設へ
- **エレベーターに安全装置を設置**
地震発生時に近くの階に自動で停止
- **1階と5階に来館者用給水機を設置**
たづくりは市のクーリングシェルター※(指定暑熱避難施設)の指定施設
※暑さをしのぐための一時的な休憩場所

バリアフリー

たづくりでは調布市バリアフリー特定事業計画に従い、施設のバリアフリー推進と整備を行っています。

点字ブロックの安全性向上改修／
トイレ入口に音声誘導装置設置



こちらは…

バリアフリートイレの自動化／
オストメイトトイレ用トイレの設置／
ユニバーサルシートの設置



エレベーターに鏡と
副操作盤設置

どなたでも利用しやすい施設に！他にも様々なバリアフリー対応を行っています。



省エネの取組

- たづくりが使用するエネルギー(電気・ガスなど)のうち約9割が電気です。たづくり全体で年間、電気約9,400万円、ガス約1,100万円、水道約450万円の光熱水費がかかっています(2024年度実績より)。
- 2021年度から2023年度にかけて省エネルギー設備及び非常用発電設備の更新を行う、**ESCO 事業**を実施しました。

ESCO(エスコ)事業ってなに？

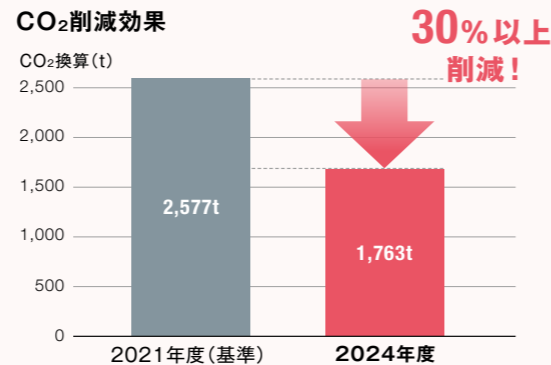
民間事業者(ESCO 事業者)のノウハウを活用しながら、照明や空調などの設備を省エネ設備に改修し、環境負荷の低減や光熱水費の効果的な削減を図るものです。施工・運転・維持管理などもESCO 事業者が請け負います。改修による省エネ効果によって削減した光熱水費で工事費や維持管理費等の経費を賄う仕組みです。

- ①照明のLED化
- ②非常用発電機の更新
- ③空調用熱源設備の更新



ESCO(エスコ)事業の効果って？

改修前の基準年(2019年度)と比較し、ESCO サービス開始後から毎年・年間25%以上のエネルギー使用量を削減しました。30年間更新できていなかった熱源設備、非常用発電機及びエレベーターの更新、照明のLED化を実施したことにより改修前と比較して大きなエネルギー使用量の削減を実現することができました。ESCO サービスは2021年度から10年間提供されます。



ワークショップ「スポンジでつくる虫ヘッド」



ワークショップ「調布のまちの未来を 立ち上げる」

たづくり1階展示室では、地域の魅力を発信しながら、誰もが美術に触れ、親しむ機会を提供することを目的に、入場無料の企画展を年間4〜5本行っています。

1F 展示室

テンジシツで「わたし」が「あなた」を知る 「わたし」を「あなた」に知ってもらう 「わたし」と「あなた」が変わる

テンジシツプロジェクト

たづくり1階展示室(テンジシツ)は文化芸術を通じて、これまで当たり前だと思っていた「事」を「転じ」、物事を異なる視点から考えていく場所を目指しています。

アドバイザーに Art Center On-going 代表の小川希さんをお迎えし、展示室が様々な人にとっての居場所となるだけでなく、そこにいる人同士がお互いを「知る」ことで、考えが変わったり、新しい自分に気付けるような場を創出していきます。

2024年度 調布にまつわる人やコミュニティの情報収集

2025年度 講座やトークセッションなどの普及イベントの実施

2026年度 調布ではできない・調布ならではの展示会の開催

調布ならではのアートイベントを考える 市内のアートや人が集まる場所を取材



ふしぎなワクワクーすぐそばにある見えないものたち(2025年度)

たづくり9階の廊下沿いにある「リトルギャラリー」では、自分も作ってみたい! やってみたい! と思えるような展示を目指し、調布市で活動する作家の展示を行っています。

9F リトルギャラリー



(C)木ノ浦

調布市名誉市民の水木しげる先生といつでもふれあえる場所として、イラストをはじめとした作品の数々を紹介しています。

1F ゲゲゲギャラリー

Our Fellow

当団体の歩みは、多様な立場から活動に関わる皆さんとともに築かれてきました。
さまざまな形で事業に携わってくださる、私たちにとって欠かせないパートナーの皆さんをご紹介します。

CAS

ちょうふアートサポーターズ(Chofu Art Supporters)略して「キャス」は市民による文化ボランティアです。財団の主催・提携事業の運営をサポートする活動をしています。2020年の発足以降、登録者は年々増加し、現在、高校生から80代まで幅広い世代のメンバーが100人以上登録しています。活動を通してメンバー自身の成長や人とのつながりが生まれ、地域コミュニティの形成に寄与しています。

財団職員と意見を交わしながら、事業を共に育てるパートナーとして、かけがえのない存在になっています。



調布市グリーンホール

調布駅前という利便性の良さと総合舞台芸術をはじめ式典、イベントなど幅広い催し物に対応できる大小ふたつのホールを有しています。1977年の開館から、長く市民に愛されています。



貸館情報

使用時間:午前9時～午後9時30分
休館日:毎週月曜日(変則あり)及び
年末年始(12月29日～1月3日)

〒182-0026
東京都調布市小島町2-47-1
京王線調布駅広場口から徒歩1分
TEL 042-481-7611

大ホール

最大定員1,301人
(1階871人、2階430人)
演奏、演劇などの舞台発表、映画会や会議など、多目的な利用ができる施設です。特にクラシックコンサートでの音響に定評があります。



小ホール

最大定員300人
演奏、演劇などの舞台発表、公演・会議など、多目的な利用ができる施設です。



調布市せんがわ劇場

京王線仙川駅から徒歩近くにある通称「安藤ストリート」の一角にある小さな劇場です。建物内には、定員121席の小劇場(ホール)のほか、リハーサル室やふれあいの家があり、保育園が隣接しています。

創る欲に溢れ、心に残る優れた舞台芸術を生み出す劇場として、次世代を担う若きアーティストたちが活躍する様々な公演やイベントが行われています。



貸館情報

使用時間:午前9時～午後10時
休館日:毎月第3月曜日(変則あり)及び
年末年始(12月29日～1月3日)

〒182-0002
東京都調布市仙川町1-21-5
京王線仙川駅から徒歩4分
TEL 03-3300-0611

ホール

最大定員121人
演劇、音楽など舞台芸術の様々な公演、イベントに使用できます。



リハーサル室

最大定員16人
防音構造のリハーサル室です。



DEL

DELは、せんがわ劇場を本拠に「レジデントアーティスト」として活躍する舞台芸術家のグループです。せんがわ劇場演劇コンクールの出場者を中心に70名超が在籍し、劇場主催の舞台公演やワークショップの企画をはじめ、演出、脚本、俳優、制作など、様々な形で力を発揮しています。

また、演劇をもっと身近に感じてもらうため、市内の児童館や中学校、大学、特別支援学級、児童養護施設などに積極的に足を運び、劇場オリジナル作品の上演や、演劇の技法を活かしたコミュニケーションワークショップも行っています。表現することの面白さや、人と関わる楽しさに出会える場として、多くの方に演劇の魅力を届けています。



劇場オリジナル作品の上演



子どもたちとのまちなかパフォーマンス
(白百合女子大学連携事業)

CIFA会員

調布市の国際交流事業は、1994年から調布市国際交流協会が担い、日本語学習支援、交流事業、多文化共生事業、外国人の生活支援等に取り組んできました。

2024年4月には財団が国際交流事業を継承し、国際交流協会は国際交流センターへ名称を変更しました。愛称は協会時代から親しまれてきたCIFAです。

CIFAでは学習会員(日本語学習者、日本国籍含む)とそれを支える活動会員(主に日本人、外国籍含む)が共に活動しています。会員一人ひとりが担い手となり、日本語学習支援ボランティア、交流サロンボランティア、通訳・翻訳ボランティアなどの活動を通じて、調布の国際交流を支えています。

現在、日本人会員は10代から80代までの280人、主に日本語学習者である外国人会員は260人が登録しています。



仙川のまちと、劇場

仙川地域にある大学とのつながり

桐朋学園芸術短期大学学生による自主上演実習を劇場で開催し、市民に広く公開しています。

白百合女子大学の社会連携センターと連携し、大学主催の子育て支援ルームへの参画をはじめ各種事業で相互協力しています。また、劇場では、各大学の知見を生かした学習講座を実施しています。

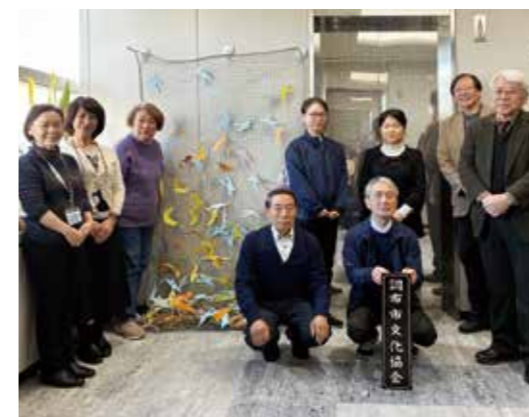


仙川商店街とのつながり
約300店舗が立ち並ぶ商店街で、劇場と連携した企画を行っています。「おらほせんがわ夏祭り」では、ファミリー層向けの演劇公演の会場として賑わいます。



調布市民文化協会 (調布市民文化祭)

文化協会は、芸術・文化の発信と振興を通じ、加盟団体の発展と相互の連絡・調整を図り、市民の心豊かな向上を目的に活動しています。東部・西部・北部の3公民館を含む27団体からなる実行委員会により開催する「調布市民文化祭」は、2025年で70回目を迎えました。3公民館とグリーンホール及びたびつくりを会場に、展覧・展示、大会・発表など様々な形で披露され、文化協会参加の皆様の活動の成果をご覧いただけます。来場者の皆様にとって様々な文化芸術や人と出会える場として、長年親しまれてきた文化協会の皆様の活動により、調布の豊かな文化芸術が育まれています。



発足：1966年
〒182-0026 調布市小島町2-33-1
調布市文化会館たづくり6階
TEL 042-441-6196
FAX 042-426-9833



調布市民歌舞伎

1996年度スタートの財団主催市民カレッジ「歌舞伎教室」を経て、2001年「調布市民歌舞伎」が結成されました。演出・指導に歌舞伎俳優中村梅花先生を迎え、本格的な歌舞伎で人気を博しています。毎年3月の調布市民歌舞伎公演は、2026年に30回目を迎えました。財団事業へも長年ご協力いただき、歌舞伎公演前日の舞台裏を見学するバックステージツアーやグリーンホールオープナーでの歌舞伎体験は、歌舞伎に気軽に触れられる機会として、毎回多くの参加者から好評です。



講師プロフィール

歌舞伎俳優 中村 梅花 氏

1950年生まれ。1974年国立劇場第2期歌舞伎俳優研修修了。4月国立劇場「妹背山婦女庭訓(いもせやまおんなていきん)」の腰元ほかで山崎隆の名で初舞台。1975年4月七代目中村芝翫に入門し、二代目中村芝喜松を名乗る。1991年4月歌舞伎座「野崎村」下女およしほかで名題昇進。2016年10月歌舞伎座「女暫」の局唐糸ほかで四代目中村梅花を襲名し幹部昇進。調布市民歌舞伎の講師を約30年務めている。



会員随時募集中

歌舞伎の魅力・奥深さを「実演」を通して学び、また公演によって調布の文化に貢献することを目標としています。毎年3月に公演を予定していますので、稽古は週1回木曜か土曜の夜ですが、公演間近の期間は稽古日の増加もあります。調布市内・市外を問わず、12歳から84歳まで様々な方々が、仲良く、楽しくお稽古しています。皆様のご参加をお待ちしています。

調布市民歌舞伎一同



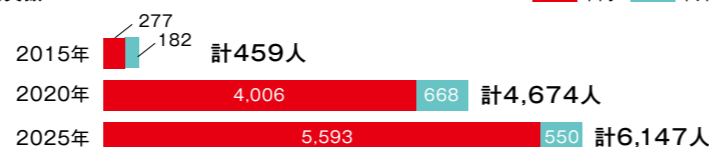
ちょうふアートプラス

日常に「アート」という彩りを「プラス」!



2019年4月、従来の会員サービス「はれっと倶楽部」を大幅にリニューアルし、「ちょうふアートプラス」が誕生しました。ちょうふアートプラスでは、文化を「特定の愛好家のもの」から「すべての人に開かれた、市民共有の財産」へと変えていくという意志のもと、市内会員をつくり、会員特典の対象をコンサートチケットだけでなく、映画や講座等にも広げました。調布市民はグリーンホール、文化会館たづくり、せんがわ劇場のいずれかの窓口で市内在住を証明するだけで、その場で無料で会員になることができます。市民の皆様が文化活動を始める最初の一步をサポートしています。

アートプラス会員数



「パラハートちょうふ meets ART」 (共生社会の充実に向けた取組について)



「パラハートちょうふ meets ART」とは、文化芸術の振興による共生社会の充実に向けて、多様な主体との連携により、多彩なアートとの出会いを通じて、調布市が掲げるキャッチフレーズ「パラハートちょうふ」を広める取組です。

「パラハートちょうふ」には、「市内外の多くの方々が、さまざまな障害に対する理解を深め、一人ひとりが寄り添う心を持ち、手を取り合って暮らせる共生社会を充実させたい」という思いが込められており、これまでに様々な取組を展開しています。

30周年記念寄附金



皆様からのご支援が、
調布の芸術、社会、未来をつなげていきます。

文化会館たづくり開館30周年及び財団設立30周年を契機として、財団が募集している寄附金事業及び税制上の優遇制度への理解や賛同の輪を広げるため、寄附募集を推進しました。文化会館たづくりとグリーンホールに募金箱を設置したほか、会館利用者へチラシを個別配付しました。募集活動により、30周年を迎えた文化会館たづくりに、利用者の皆様から温かいご支援を賜りました。いただいた寄附金は、施設管理運営及び事業の活動資金として大切に活用させていただきます。財団HPには、ご芳名を掲載しています。

総額 117,655円 (2026年3月5日時点)

ロゴコンセプト

BEYOND CULTURES たづくりは おもしろい

30周年事業の多様さ、複合施設であるたづくり、様々な目的で集う市民、多様なヒト・モノ・コトにあふれる調布らしい共生社会を目指そうという思いを込めています。

30周年ロゴは、調布市出身・在住のイラストレーター・映像監督の黒木ユタカさんに作成いただきました。本誌でも様々なページで黒木さんのイラストが登場します。



発行 公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団
〒182-0026東京都調布市小島町2-33-1
電話 042-441-6111(代表) / FAX 042-441-6160
発行日 2026年3月19日

企画・編集 公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団
デザイン 古田裕(FULL DESIGN)
30周年事業撮影 薩川良弥、鈴木智哉
イラスト 黒木ユタカ(表紙、P16-17)、田淵正敏(P18)、古田英里(P12-15、19)